



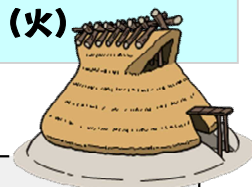
沼津市立長井崎小中一貫校



出前授業レポート

静岡県埋蔵文化財センター

令和5年5月16日(火)



「体験することで、曖昧だった知識が、
実感を伴った理解になりました。」

沼津市立長井崎小中一貫校の6年生13人が、古代の歴史体験学習で、土器や石器に実際に触れ、学ぶことで、歴史に対する興味関心を深めることを目的に、土器の分類、石器の試し切り、火起こしの3つの体験を行いました。

土器の分類体験



縄文時代と弥生時代の生活の違いが、縄文土器と弥生土器の違いになっていることを考えました。縄文土器は、取っ手は付いているが、食材を煮炊きするために用いられたもので、弥生土器は、甕や壺の形をして、農耕が行われていたことがわかりました。

「実際に土器に触ることができて、楽しかった。土器が本物と知り、びっくりした。」



石器の試し切り体験



鉄がまだない時代の生活は、石や木でいろいろな物を切ったり、掘ったりしていたことを、本物の打製石器や磨製石器を見て、納得していました。そして、黒曜石で野菜や紙を切ってみました。本当に石で野菜や紙が切れることが分かり、驚いていました。

「あまり硬いものは切れないと思ったけど、意外によく切れて驚いた。」



火起こし体験



もみきり法や弓きり法、舞きり法などの火起こしの方法や歴史について話しました。そして、舞きり法での火起こしの手順を説明した後、子どもたち自身で弾み車を回しました。力を入れすぎて調子よく回らず苦労していましたが、コツが分かると上手に回せました。火種が出来、長い息を吹きかけると、火が起きました。

「火起こしは大変だし難しい。昔の人は火を起こすたびにこれをやっていて、すごいなと思った。」



先生の感想

「体験を通して、縄文時代、弥生時代の生活について理解できました。体験することで、曖昧だった知識が、実感を伴った理解になりました。土器について、教科書からでは縄文の文様があるかどうかといった、見た目では理解できていなかったことが、実際に触れることで、手触りや厚みから土器の違いを理解することが出来ました。火起こしの道具を上手に扱えない児童に丁寧に動かし方などを教えていただきました。ありがとうございました。」

